

コロナ禍に対応した新たな日常生活における課題（報道事例等から）

〈視覚障害〉

課 題	対応例
<u>身体的距離の確保</u> <ul style="list-style-type: none"> ・距離を把握することが難しいため、気付かずに近づきすぎてしまうことがある。 ・ガイドヘルパーの肩や腕につかまり、密着して歩く必要があり、身体的距離を確保できない。 	
<u>店舗等での感染防止対策</u> <ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策のためのレイアウトの変更がわかりづらい（透明アクリル板の設置個所、距離を保つための床の目印等）。 ・店舗等を利用するにあたっての新しいルールがわからない（消毒・体温測定の実施、入口・出口の固定、営業時間の変更等）。 ・誘導、買い物や注文の手伝いを頼みにくい。 ・物を手にとって確かめたい。 ・金銭を以前は手渡ししてくれていたが、トレイの上に置かれるようになり、取るのに時間がかかる。 	

〈聴覚障害〉

課 題	対応例
<u>マスクの着用</u> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの際、口の動きや表情を参考にしているため、話している内容を理解するのが難しい。 ・話しかけられても、声がこもって気付かない。 ・複数人と話をする際に、誰が話しているかがわからない。 	
<u>オンライン会議</u> <ul style="list-style-type: none"> ・手話通訳者と資料を同時に見るのが難しい。 	

〈肢体不自由〉

課題	対応例
<u>身体的距離の確保</u> <ul style="list-style-type: none"> ・車いす使用者と話す時、立っている人よりも低い位置に顔があるため、相手が視線を合わせようと、近づいてきてしまう。 ・車いす使用者と介助者は介助中距離をとるのが難しい。 ・1席ずつ空けて座ることがルール化されており、介助者が隣席に座れない。 	
<u>マスクの着用、消毒</u> <ul style="list-style-type: none"> ・消毒液の置いてある位置が高くてとどかない。 ・上肢に障害があるため、マスクの着脱や消毒液の取り出しがスムーズに行えない。 	

〈内部障害〉

課題	対応例
<u>マスクの着用</u> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸機能障害があり、マスクをすると呼吸が苦しくなるため、つけることが難しい。 	

〈知的障害・発達障害・精神障害〉

課題	対応例
<u>身体的距離の確保</u> <ul style="list-style-type: none"> ・人との距離間をつかむことが難しく、近づいてしまうことがある。 ・支援者は密着して支援をする場合がある。 	
<u>マスクの着用、手洗い・消毒</u> <ul style="list-style-type: none"> ・感覚過敏のため、マスクの着用、手洗い、消毒が困難（痛い、苦しい、違和感） ・表情が見えないことに不安を感じてしまう。 ・マスクをつけなければならないことが理解できない。 	

・マスクがつけられないがために周りから厳しい目で見られるため、外出しにくくなった。	
<u>その他</u> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍という状況が理解できない。 ・感染症への強い不安を感じる。 ・いつもどおりでないと、パニックになる。 ・会話を控えなければいけない場面でも、障害特性により声をだしてしまうことがある。 	

★ 上記「対応例」について、令和3年11月11日（木曜日）までに下記担当宛てご提案ください。

合わせて、上記以外のコロナ禍に対応した新たな日常生活における「課題」についても、ご提示ください。

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
 東京都福祉保健局障害者施策推進部計画課権利擁護担当
 担当：松川、露木、信國
 電話：03-5320-4559（直通）FAX：03-5388-1413
 E-mail：Hiroyuki_Tsuyuki@member.metro.tokyo.jp